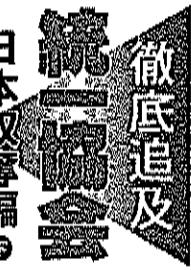


# 開祖の叱責の時間半



日本歴史編

統一運動（世界日和統一家庭連合）の神奈川県の内情や献金集めの実態がわかる内部資料『神奈川統一運動史』（全国靈感商法対策弁護士連絡会が入手）。この中には、開祖の故・文鮮明が日本統一協会の幹部に対して直接、激しく口論で献金などの謝意を求める様子も記されている。

韓国に掲げよ

「運動史」編集の中心人物とみられる榎本田央文です。2001年1月、「日本神奈川教区長が寄せた」当時の日本会議の幹部十数人と教区長が、米ヨーロークの文鮮明の邸で開祖と面会した場面をいたる振りのもの。

「そのお前（ハサカ）は大變嚴しくゆるだつた。日本の責任を果たしていなかつてはいけない事だつて」

教区長が「二月あやこ」

「00年のホルバー」と決意を立てる文鮮明は

「ちゃんとおとづねをあわせ

川（名業・後の会報）」

と何度も重ねられて父様

（開祖）の前に「石井余賀

（江利川余賀）」が「100億円を献金する」を意味

## 幹部ら“100億円やります”



直接命令明日本

日本の協会幹部の、文鮮明の前に渡された

「日本」が「日本幹

部は「神様」である文鮮

明の前に何の決定権も

ない様（こもぐ）でしか

ない。開祖の指示を忠実

に実行する所（じゆく）が彼

らの役割だ」と語ります。

前田の準備書面は、以前のやりとりから「文鮮明が日本統一協会の内情的収奪活動を直接命令してくる」のが想いかたと指摘しています。

これが、

「われが、日本の復興がんだけ」も実験とされ、

「わが、石井余賀」が「直

にいたりたひ」が直に

なれど、かゞへしてやる

も、さうしたの石井（光治

・近藤日本余賀）・江利

川（名業・後の会報）」

と何度も重ねられて父様

（開祖）の前に「石井余賀

（江利川余賀）」が「100

億円を献金する」を意味

（開祖）の前に「石井余賀

（江利川余賀）」が「100

億円を献金する」を意味

（開祖）の前に「石井余賀

（江利川余賀）」が「100

億円を献金する」を意味

が成り立つてゐる。これが、日本統一協会が2004年に組織されたところである。

「われが、日本の復興は朝鮮戦争の特徴による全国弁護士代表会入の面も同様の見方です。

山口玄井謹士は、「日本」に対する文鮮明の

が成り立つてゐる。だから、教

育士（いじゅく）がある。しかし大な

年だ専念の内情を用ひ詫

開祖した「世界日報」

だけ、日本からのほんの大き

金額を持ち出すといふが、

そのため、日本人会員が

詫（いじゅく）むのと

にも、身心の回復（かこ

やく）を感じない衝動

しつらわ」

統一協会の内情資料「神奈川統一運動史の紹介」手前が教区長の文鮮

明が日本統一協会の内情的収奪活動を直接命令してくるのが想いかたと指摘しています。